

# 学校法人丸和学園 東京外語学園日本語学校

## 自己点検及び自己評価の実施要項

### 1. 目的

#### (ア) 告示基準の維持

設置者の適格性、施設・設備の整備、教職員体制、コース・カリキュラム、学生支援態勢等、当校の運営において出入国在留管理庁が定める「日本語教育機関の告示基準」（以下「告示基準」という。）に適合し、日本語教育を行う態勢を整え、求められる水準に達していることを定期的に確認すること。

#### (イ) 教育の質の維持と向上

「目標設定→施策立案→実施→自己点検・自己評価→改善→目標の再設定」という自己点検・自己評価サイクル(PDCAサイクル)を強化することにより、教育の質の維持と向上を図ること。

### 2. 基本方針

#### (ア) 自律的かつ真摯な取組みであること

自己点検でありながらも、客観的視点で評価すべき趣旨に鑑み、実施体制、評価指標、評価方法を明確にすること。

#### (イ) 第三者からも検証可能なものとする

実施した自己点検は、第三者に公表し、検証可能なものとする。

### 3. 実施体制

実施者は、下記の通り5名とする。校長は自己点検・自己評価の運営責任者となる。

#### (ア) 校長

#### (イ) 教務主任

#### (ウ) 教員2名

#### (エ) 事務局長

### 4. 実施頻度・時期

#### (ア) 実施頻度

年1回以上定期的に実施する。

#### (イ) 実施時期

毎年3月中旬（卒業式実施後）に実施する。

### 5. 自己点検・自己評価項目の構成

#### (ア) 別紙の通りとする。

#### (イ) 実施者は、自己点検・自己評価項目の構成の見直しを3年毎に行う。

## 6. 自己評価方法

### (ア) 小項目の点検の実施方法

実施者は点検・評価項目の小項目ごとに個別に点検を実施する。記憶による主観的評価ではなく、資料や記録の確認も行いながら客観的に実施する。小項目の達成度合いにより、下記の通り評価を選択する。

- |                                  |   |
|----------------------------------|---|
| ① 達成されている若しくは適合している              | 5 |
| ② 一部未達成であるがほぼ達成されている若しくはほぼ適合している | 4 |
| ③ 50%達成している若しくは50%程度適合している       | 3 |
| ④ 未達成もしくは適合していない場合               | 2 |
| ⑤ 評価不能もしくは所掌事項外                  | 1 |

### (イ) 小項目の総合評価方法

- |             |   |
|-------------|---|
| ① 評価者の80%以上 | A |
| ② 評価者の60%以上 | B |
| ③ 評価者の40%以上 | C |
| ④ 評価者の20%以上 | D |
| ⑤ 評価者の0%以上  | E |

## 7. 改善の実施

(ア) 前項に定める自己点検・自己評価の結果、小項目の総合評価がEとDに該当した場合には、当該項目の点検責任者は、改善方法を作成する。

(イ) 前項の改善方法について、校長と協議する。必要に応じて教員や職員にもヒアリングを行う。

(ウ) 改善方法は、自己点検・自己評価実施後3ヶ月以内に定めるよう努める。

(エ) 改善方法が定められた後に、次回自己点検・自己評価実施までに改善方法に従って改善を実施する。

## 8. 公開方法

### (ア) 公開方法

自己点検・自己評価の結果は、次項の内容を学校の校内に掲示し、かつホームページで公表するものとする。

### (イ) 公開する内容

1. 教育理念・教育目標	評価
1-1 学校の教育理念・教育目標や育成する人材は明確となっているか	A
1-2 学校の教育理念である「日本と世界の架け橋となれる心豊かな人財」のは育成はなされているか	A
1-3 学校の教育目標に沿った教育は行われているか	A

[ 総評・課題 ]

本校は日本語学校として、「日本と世界の架け橋となる心豊かな人財の育成」という教育理念を明確に掲げ、それに沿った教育を効果的に実践しており、学生の日本語力向上や国際的視野の育成に注力し、教職員の指導も目標と連携している。一方で、理念の具体的な成果を示すデータ収集や、多様な学生ニーズへの対応、国際的な実践機会の拡充が今後の課題である。これらに取り組むことで、教育目標の達成度がさらに高まるだろう。

2. 学校運営	評価
2-1 学校の運営体制が日本語教育機関の告示基準を満たしているか	A
2-2 学校の理念や目的に沿った運営方針は定められているか	A
2-3 学校の理念や目的に沿った事業計画は定められているか	A
2-4 組織運営や人事、財務管理に関する規定は整備されているか	A
2-5 意思決定システム、コンプライアンス体制が整備されているか	A

[ 総評・課題 ]

本校は日本語学校として、学校運営で高い水準を保ち、告示基準を満たす体制、理念に沿った方針・計画、整備された規定、機能する意思決定・コンプライアンス体制を実現している。これが学生支援の基盤となり、安定運営につながっている。今後、成果を示す具体的な指標の整備、国際連携の強化、教職員研修の充実を図ることで、理念の実現度が上がり、信頼される学校としてさらに成長できるだろう。

3. 教育活動	評価
3-1 教育理念に沿った教育課程が体系的に編成されているか	A
3-2 成績や進級、終了の判断は明確であり、また適切に運用されているか	A
3-3 教員の指導力向上のための取り組み、教育課程の改善のための取り組みが行われているか	A

[ 総評・課題 ]

本校の教育活動は、「日本と世界の架け橋となる心豊かな人財の育成」という理念に沿って、体系的な教育課程が生まれ、成績や進級・終了の判断も明確かつ適切に運用されている。教員の指導力向上や教育課程改善への取り組みも積極的に行われている。これにより、学生に質の高い学びが提供できている。今後、学生の声をさらに反映した課程の見直しや、実践的な日本文化体験の機会を増やすことで、理念がより深く根付き、教育の魅力が一層高まるだろう。

4. 学生支援	評価
4-1 学生に対する学習相談や進路アドバイス、説明会など支援体制が整備されているか	A
4-2 健康管理や日本での生活指導などへの支援体制が整備されているか	A
4-3 防災訓練や緊急時における体制、安全教育などが整備されているか	A

[ 総評・課題 ]

本校の学生支援は、学習相談や進路指導、生活面での健康管理・生活支援、さらには防災訓練や安全教育に至るまで、万全の体制が構築されている。これにより、学生が安心して学び、成長できる環境が整っており、いずれの項目も高い評価を得ている。今後は、学生一人ひとりのニーズに寄り添ったきめ細やかな支援を強化し、地域社会との連携による実践的な生活支援を広げることで、本校の支援体制がさらに充実したものとなるだろう。

5. 学習指導と成果	評価
5-1 学生の日本語能力の向上が図られているか	A
5-2 学生の日本語能力を適切に把握しているか	A
5-3 学生の進路を適切に把握しているか	A

[ 総評・課題 ]

本校の学習指導と成果は、学生の日本語能力を確実に向上させ、その習得度を的確に評価する体制が整っている。また、学生の進路を詳細に把握しており、いずれの項目も高い評価を得ている。特に、JLPT 対策を通じた指導や進路に関する個別相談が充実している点が、学生の成長と将来設計を強力に支えている。今後、これらの取り組みをさらに深化させ、実践的な日本語運用能力の強化や多様な進路選択への支援を拡充することで、学生の可能性が一層広がるだろう。

6. 教育環境	評価
6-1 学校の施設・設備が十分かつ安全に整備されているか	A
6-2 IT 教材や図書などの教材は適切か	A
6-3 特色ある教育推進のための環境整備がなされているか	A

[ 総評・課題 ]

本校の教育環境は、施設や設備が十分に整い、安全性も確保されている。また、IT 教材や図書が適切に揃い、特に学生用のパソコンを用意してパソコン授業を実施している点が、特色ある教育を支えている。これらが「日本と世界の架け橋」となる学びを後押ししており、高い評価を得ている。今後、電子黒板等のハイテク技術を授業に導入することでさらに進化させ、目まぐるしく変化する IT 社会に適応できる力を学生に育むことで、教育環境がもっと強固で未来志向的なものになるだろう。

7. 入学者の募集		評価
7-1	入学者の募集は適切に行われているか	A
7-2	募集の際に学校の情報は学校案内・募集要項・ホームページなどで正確に伝えられているか	A
7-3	受験料・入学金や授業料等は適切か	A

[ 総評・課題 ]

本校の入学者の募集は適切に進められ、学校案内やホームページで正確な情報が伝えられている。受験料や授業料は明朗会計に基づき適正に設定され、信頼を築いている。そのような質の高さが認められて日本語学校クラス1を取得している点も特筆すべき強みだ。今後、学校行事をSNSで積極的に発信し、デジタルを駆使した現代的な募集方法を強化することで、より多くの優秀な学生を引き寄せ、さらなる飛躍が期待できるだろう。

8. 財務内容		評価
8-1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているか	A
8-2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	A
8-3	財務について会計監査は適正に行われているか	B
8-4	財務情報の公開体制は出来ているか	B

[ 総評・課題 ]

本校の財務内容は、中長期的な安定性が確保され、予算・収支計画も有効かつ妥当に策定されており、堅実な運営がなされている。評価では8-1と8-2で「A」を得たが、会計監査の適正さ(8-3)と財務情報の公開体制(8-4)では「B」にとどまった。全体として財務基盤は強固だが、監査プロセスや情報開示には改善の余地がある。今後、より厳格に取り入れ、財務データを分かりやすく公開する仕組みを整えることで、透明性と信頼性がさらに高まり、持続可能な学校運営が一層強化されるだろう。

9. 法令等の遵守		評価
9-1	出入国管理及び難民認定法令及び各種法令等の遵守と適切な運営はなされているか	A
9-2	個人情報保護の取組みが適切に行われているか	A
9-3	自己点検・自己評価の実施と改善及びその公開を適切に行っているか	A

[ 総評・課題 ]

本校は法令遵守において、出入国管理及び難民認定法や各種法令を確実に守り、適切な運営を行っている。個人情報保護も徹底され、自己点検・自己評価による改善と公開もきちんと進めており、すべて「A」の評価を得ている。特に、さきほども記載した通り日本語学校クラス1の認定を受けたことは、本校の運営が評価された証である。今後、法令の変化に迅速に対応し、学生や職員への法令教育をさらに充実させることで、信頼性がより高まり、安定した体制が築けるだろう。

## 10. 地域貢献・社会貢献

評価

10-1 日本語教育機関の資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか

B

### [ 総評・課題 ]

本校の地域貢献・社会貢献は、日本語教育の資源や施設を活用し、フリートークやボランティアを含む活動を通じて地域との連携を図っているが、評価は「B」にとどまり、活動の範囲や効果には向上の余地がある。今後、教職員が一丸となって検討を重ね、地域や社会貢献の幅を拡大する取り組みを推進することで、「日本と世界の架け橋となる心豊かな人財の育成」という理念が地域に一層浸透し、貢献の成果がより確実に高まるだろう。

## 11. 働き方改革・福利厚生

評価

11-1 教職員の働き方改革や福利厚生は適切に行われているか

A

### [ 総評・課題 ]

本校の働き方改革と福利厚生は、教職員が働きやすい環境を整えるための取り組みが適切に進められており、「A」の評価を得ている。勤務時間の見直しや休暇制度の充実など、教職員の負担軽減と生活の質向上に配慮した施策が機能している。これにより、教育の質を支える教職員のモチベーションが維持されている。今後、柔軟な勤務形態の導入や健康管理支援をさらに強化することで、働きやすさが一層向上し、長期的な学校運営の安定性が確保される。